

# 平成26年度県小教研学習指導改善調査結果を受けての取組

加茂市立須田小学校

## 「自分の考えをもち、意見を交流して学び合う子」の育成

～課題作りと話し合う場の工夫～

### 1 学習面における児童の実態と課題

#### <県小研テストの結果から>

- ・国語では、たくさんの資料から必要な部分を選択し、関連づけて考えることが難しかった。資料の読み取りと文章全体の主旨にずれがあっても気づけなかった。
- ・作文問題では時間がかかっていた。提示されている作文の条件（段落と内容、改行など）を考えて書けなかった。また、具体的な体験や例を書き添えることができなかった。
- ・算数では、問題をよく読まない、問題の説明を捉え違えているなどがあった。
- ・考え方を説明する際、具体的な言葉を使えず、抽象的な言葉でしか表現できなかった。人が読んで（聞いて）分かるように表現することや、詳しく説明する力が不足している。

#### <校内研修の成果から>

昨年度は、特活での学級づくりと、ペアやグループ学習を取り入れた教科学習の二本立てで「伝え合い、学び合う子の育成」に取り組んできた。その結果、

- ・多様な考えを肯定的に受け止めることができるようになった。
- ・ペアや小グループの中での話し合いを通して、自分の考えを振り返る姿が見られた。

などの成果をあげることができた。その反面、次のような課題も残された。

- ・小グループの中でも、声が小さく堂々と自分の考えを伝えることができない。また、全体場で発言することに対しては、まだ抵抗がある。
- ・生活場面でも、はきはきと受け答えをしたり、進んで話をするコミュニケーション能力が不足している。

これらの実態を踏まえて、下記の通り校内研修と授業改善に取り組んできた。

### 2 校内研修

#### <目指す子どもの姿>

- ①人の意見をよく聞き、自らもよく考え、自分の意見を積極的に伝える子
- ②互いに意見を交流して、自分の考えを振り返り、学びを深める子

### ①話す力を付けるために

- ・自分の考えをもたせ、文章、メモ、図などで簡潔に記述させる。  
そのために、自力解決と記述時間を確保する。
- ・授業以外の様々な教育活動の中でも、話す機会を多く作る。

### ②意見の交流と振り返りで学びを深めるために

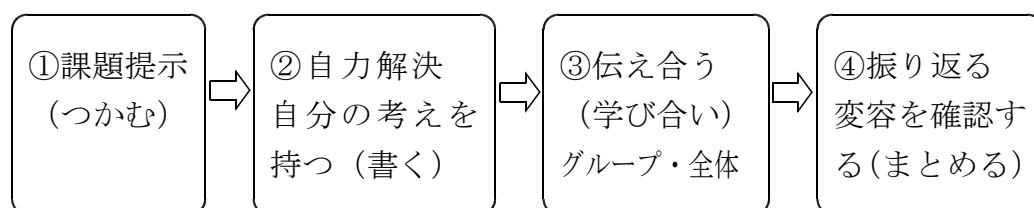
- ・個→ペア（グループ）→全体→振り返り という学習過程を取り入れる。
- ・振り返りでは、次のような変容を期待する。  
根拠がはっきりしたり、増えたりする。  
多様な見方・考え方ができたり、良さが分かるようになる。  
よりよい方法、読み取りができるようになる。

## 研究仮説

○話し合いの論点を明確にし、自分の考えが持てる課題を設定して、話し合う場を工夫することにより、意見の交流が生まれ、学びを深めることが出来るであろう

### <授業づくりについて>

- 発問の工夫…焦点化された課題、論点のある課題づくり
- 学び合いが成立するために、学び合いの視点を明確にし、授業の工夫を行う。
  - ・形態の工夫…ペアトーク、グループトーク、全体での学び合いを取り入れる。
  - ・伝える工夫…書く活動（自己の解決方法の文章化）を取り入れる。
  - ・スキルの活用…発達段階に応じた話す・聞く・書くスキルの指導を行う。
- 学習過程



### <これまでの授業実践>

#### < 4 年 の 実 践 >

算数「いろいろな四角形」

#### ○授業の様子・成果と今後の課題等

- ◇平行四辺形の定義や性質に基づいて個々に図形を描き、それを見せ合いながらペアで描き方を説明する。その後、視聴覚機器を用いて、全体に説明。
- ・ペアでの話し合いを全体に広げる際、作図をテレビに映して紹介する方法は、分



ペアで説明

かりやすかった。

- ・学習したばかりの作図技能が定着しておらず、自力解決作業に時間がかかった。

### < 3年の実践 > 国語「交流会で『須田小学校の自慢』を伝えよう」

#### ○授業の様子・成果と今後の課題等

◇総合学習と関わらせ、目的意識・相手意識をはっきり持たせて子どもの意識付けを図り、話し合いの成果を次の活動に結びつける単元構成を考えた。

- ・グループ3人という人数構成は、一人の発話量を高めていた。
- ・一人ひとりが考えた案をグループで3つに絞り、全体でさらに絞るという課程の中で、選択基準に基づく意見が出てきた。



グループで発表

### < 6年の実践 > 国語「学級討論会をしよう」

#### ○授業の様子・成果と今後の課題等

◇「物語は、テレビや映画で楽しむよりも本で楽しむ方がよい。」をテーマに、事前のワークシートやグループ構成を工夫し、話し合いをさせた。

- ・とても使いやすいシートで児童がよく書き込みをしており、それに基づいて話し合いを進めることができた。
- ・あえて話すことが苦手な児童でグループを作ったことで、誰もが話す機会を得ることができた。説得力の話し合いができるようになったと児童自身も感じている。



グループで相談

### < 5年の実践 > 国語「作品を自分なりにとらえ、感想文を書こう」 ～「大造じいさんとガン」～

#### ○授業の様子・成果と今後の課題等

◇大造じいさんの心情変化を叙述から読み取り、感想文を書くことが単元のゴール。心情はどう変わったか、なぜ変わったかについて考え合った。

- ・個で根拠となる叙述を探し、線を引くという作業はできていた。
- ・グループでは紹介し合っていたが、考え合うところまで行かなかった。



個の作業

## < 2年の実践 > 国語「お手紙」

### ○授業の様子・成果と今後の課題等

◇音読劇を単元のゴールに据え、各場面での登場人物の心情を読み取る単元構成。

「なぜ、しあわせか」について、グループで話し合い、吹き出しを書かせた。

・グループでの話し合いを活発にするために、意見カードを使い交流させた。友だちの意見と自分の意見を比べながら聞くことができた。

・登場人物の一人を選んで読み取りをするなど、学習活動を削り、話し合いに十分な時間をとったり、振り返りの時間を確保することを考える必要がある。



意見カードを使って

### < 授業実践の主な成果 >

事前に自分の考えを持たせ、記述させたものを基に、ペアトークやグループトークなどで自分の考えを伝え合うことができるようになった。それを全体の場で伝え合い、意見交換などもできるようになってきている。

今回、グループ内で意見交換のための手立てとして、意見カードを用いたことも効果的であった。カードを使うために、友だちの話をしっかりと聞いていた。ただ、いつまでもカードに頼ることなく、それが無くとも話し合いができるように育てていかなければならない。

また、意見交流により、授業の中で深めた学びを実感させるためにも、最後に振り返りの時間をしっかりとるように努めなければならない。

## 3 日常の取組

### (1) 学力アップと学習習慣の育成

#### ①ノート指導

1学期に前年度の児童の手本になるノートを紹介し、ノート指導をした。そして、子ども達の使い終わったノートは担任が預かり、11月に「いちおしノート展」を開催した。ここには、全学年の各教科で、考えの記述や内容の工夫がみられるものなど総合的に良いと思われるノートを展示した。おすすめノートを参考にして、子ども達にノートの記述の仕方や内容について学ばせている。



いちおしノート展



## ②SUT(スキルアップタイム)の設定

月曜日の放課後、SUT（20分）を利用して児童に定着不足なところを取り立て指導している。下学年では活用プリント、上学年ではWeb配信問題の過去問題・サポート問題・発展問題にも取りませたり、解説したりしている。

## ③計算力と漢字力の定着を図る

毎週木曜日には算数検定、月末には漢字検定を実施している。算数検定には、100問時間計測問題と5分で10問問題があり、その都度結果を検定カードに記録し、学期末に児童がふり返しをしている。また、文章読解力をつけるため、活用問題のあるワークテストと活用プリントのいずれかを隔月で実施している。漢字や活用問題の結果については、学年便り等で保護者にも合格率を知らせている。

算数テスト 2年生		もくひょう		けんていをうけた日(こうかくのしるし)	
算数検定 100問	40分				
算数検定 100問	40分				
2けた÷2けた ひき算あり	5分間で10問				
2けた÷2けた ひき算あり	5分間で10問				
2けた÷2けた ひき算あり	5分間で10問				
2けた÷2けた ひき算あり	5分間で10問				
かけざん 2×□のたん	3分間				
かけざん □×□のたん	2分間				
かけざん □×□のたん	2分間				
かけざん □×□のたん	2分間				
かけざん 算数検定	4分間				

### けいさんテストカード

※この学年がくひょうとするときは、「くひょう」を記入して  
います。  
●「けいさん」のあひだに「けいさん」のあひだに記入して  
ください。また、「けいさん」のあひだに「けいさん」のあひだに  
記入する場合は、たんにんのあひだに記入してください。

かもしりつ すぎ小学校 年

## ④家庭学習の奨励

- ・夏休み前の地区懇談会資料として「家庭学習のススメ」を配布した。
- ・各学年で、内容や学習時間を記入できる家庭学習カードを作成し、毎日点検している。

## (2)スピーチタイムの設定と詩の音読

話す力を付けるため、週1回「全員がスピーチをする時間」を朝学習で設けた。決められた話題について、一人ひとりが全員の前、またはグループ内でスピーチをする。

また、大きな声を出すことのスキルアップとして、毎朝、各学年で選んだ詩を音読したり暗唱したりしている。



全校の前で詩を発表

